

生徒指導通信

黒沢尻工業高校生徒指導部
第20号(8月31日発行)

○誰でもリーダーになれる！

先日、新しい生徒会役員が選ばれました。無事に信任されてホッとしている反面、全校生徒のリーダーとなることへの重圧や責任感が芽生えて、不安な気持ちも芽生えているかも知れません。

『地位が人を作る』と言います。これからは、様々な場面で「お前、生徒会の役員だろ！」と言われるケースもあることでしょう。意識して生活することは大事なことです。与えられたチャンスを生かして、自分のために、そして学校のために尽力してください。

さて、皆さんは“おしえて！イチロー先生”を観たことがありますか？

ある男の子が「うるさい生徒に静かにしてもらうにはどうしたらいいですか？」と質問します。それに対してイチローは、「生徒会長だから言うことを聞くということはないと思う。それを誰が言っているのかが大事で、それを見ているみんなが、あいつが静かにしろというのなら、俺たちも静かにしなきゃと思わせることができるかどうか。立場じゃなくて、あいつが言うから、と思わせることができたら勝ちです。つまり、何を言うかというよりも、誰が言うかが大事なところ。」と答えています。

生徒会役員だけがリーダーというわけではありません。今はその立場にないと思っても、いつかその機会は突然訪れます。誰かが誤っていたり、間違いに気付けずにいた時、声を掛けて振り向かせる必要が出てきます。是非、お互いに正しい方向にリードしてあげましょう。

会社に入ってから頑張るのではなく、今から自分の生活態度を意識して直していきましょう！

○やる気は「困った！」を発見した時に生まれる。

生徒指導部長の小林先生は、中学生の時に生徒会長でした。しかし、人前で話すのが大の苦手で、思い悩んで円形脱毛症にまでなりました。それでも、「困った！」と尻に火が付き、一念発起して克服することが出来ました。

この「困った」が我々の意識の表面に浮かび上がった時に、「勉強しよう」「練習しよう」等の気持ちが生まれます。

「もっといい選手になりたい」「もっといい成績を残したい」「負けちゃって悔しい…」

“困った(課題)”が見つかると、やる気のスイッチがオンになり、取り組む姿勢も変わります。そのために一番肝心なのは、己を知ることです。

我々教師も保護者も、「こうなってほしい」という期待だけを伝えるのではなく、生徒たちがどんなことで困っているかを知ること。困っていることを知らずに、「こうしなさい、ああしなさい」と伝えても、生徒たちの心は動きません。困っていることは何だろう？ どうすれば、それを解決するサポートができるだろう？ と、課題や困っていることを知り、向き合ってあげることが大切です。お腹いっぱいの人に、料理をたくさん御馳走してもあまり喜んでくれないように、課題を認識していない生徒にトレーニングメニューや課題だけ与えても、効果は全くありません。

生徒の皆さん、考査期間中に自分を見つめ直し、自分の“困った(課題)”に気付いてみてください。

**“いまの自分には何が足りないのか、どこが弱いのか。
こうしたことを正しく認識することが極めて重要です。”**

by野村 克也(元プロ野球監督。評論家)